

プレスリリース(報道関係者各位)

【報道関係者各位】 2026 年 7 月 13 日 石巻市雄勝町伊達の黒船太鼓保存会交流会(伊東支部)

【按針祭 80 周年】徳川家康と伊達政宗の「洋式帆船」が繋いだ、時空を超える歴史の妙。

津波ですべてを流された石巻・雄勝の「執念」が、伊東の市民を動かした！

—— 公的な支援なく 12 年間続ける恩返し。その熱意に応え、本物の太鼓なき伊東で夜な夜な「雑誌」を叩き続けた有志 4 名が今夏、念願の合同演奏へ。

—— 予算が切れても途絶えなかった 15 年の民間交流。多くの先人と仲間たちがバトンを繋ぎ、伊東の経済や文化を支える市民たちが強固なバックアップ体制を敷く「伊東支部」が今年の大舞台へ結実。

☒ 【発信者の想い】地元の報道関係者の皆様へ

東日本大震災から 15 年。行政の補助金がとつくに切れてもなお、私たち伊東市民に「あの時の恩返しがしたい」と、公的な支援なく毎年遥々やってくれる石巻・雄勝の仲間たちがいます。彼らの凄まじい熱意と義理堅さに触れた時、私たちはただ客観的に応援するだけの『支援者』でいることを辞めました。

「同じステージに立ち、共に伝統を叩き繋ぐ『当事者』として彼らを出迎えたい」。

本物の太鼓がない中、夜な夜なボロボロの雑誌を叩きながら、仲間たちと必死に夢を見てきた合同演奏が、今年の按針祭 80 周年という大舞台でついに実現します。15 年前、伊東の大川と石巻の四倉の出会い、速度に固い約束から始まったこの民間交流の結実を、皆様にどうしてもお伝えしたく、この資料を作成いたしました。私たちの生身の言葉と、現在進行形の挑戦を、ぜひ取材していただければ幸いです。

共同発起人：大川光浩（株式会社大川組） 事務局長：工藤宣佳（株式会社広野園） 伊東支部 メンバー一同

プレスリリース本文

静岡県伊東市の夏の最大イベント「按針祭」が、今年 2026 年、第 80 回の節目を迎えます。この歴史的な記念の年に、東日本大震災の被災地である宮城県石巻市から「雄勝町伊達の黒船太鼓保存会」の皆様が、今

年も公的な支援に頼ることなく、按針祭「太鼓合戦」のステージへ出演するためにやってきます。

行政の公的補助金が終了した後も、被災地側が「伊東への恩返し」として12年以上も訪問を続け、民間・次世代の深い文化交流として定着しているこの事例は、地域間交流の理想的な姿として全国的にも極めて稀な先進事例です。

さらに今年は、この絆を伊東の地に深く根づかせようと地元の事業者や市民が集結し、「伊東支部」のバックアップ体制を正式に確立。本物の太鼓がない中、現在も「雑誌」を太鼓に見立てて叩き込むというストイックな練習を重ねてきたメンバーから、大川光浩氏とその息子・浩輝氏を含む4名の演者が念願のステージデビューを果たし、雄勝のメンバーとの合同演奏を披露します。

按針祭80周年という記念すべき大舞台で結実する、多くの先人たちと両市民が命を吹き込み続けた15年の全ストーリーをご取材いただきたく、詳細な資料とともにご案内申し上げます。



15 年の歴史：物資なき被災地で「タイヤ」と「雑誌」を叩いた原点

- ・ 震災前から紡がれていた四倉親子と雄勝の「玄昌石の絆」 当時、東京駅の屋根修復（雄勝産スレート材）にも携わっていた故・四倉俊成氏は、雄勝の特産品である「玄昌石（天然スレート）」の施工を通じて雄勝と深い繋がりを持っていました。その息子でありミュージシャンの四倉由公彦氏もまた、震災前に楽曲『ペルム幻想～二億五千万年の大地の夢』での共演を通じて黒船太鼓保存会と深く関わっていました。当時はまだ保存会に「所属前」でありながら、四倉親子は楽曲の共演などを通じて、雄勝の風土と伝統に強い愛着と親密な縁を持っていました。
- ・ 二人の男の決意——すべての原点となった大川光浩と四倉由公彦の出会い
- ・ 2011 年の震災直後、単身で石巻市へと支援に赴いた伊東市民・大川光浩は、地の利が無い中、当時 SNS で現地の状況を発信していた四倉由公彦氏を頼って現地へ向かいました。この二人の個人の出会いこそが、すべての物語の始まりです。そこで大川は、津波により全ての太鼓を流され、解散の危機にありながらも伝統を守

ろうともがいていた保存会の存在を知ります。大川は「雄勝の伝統の灯を絶対に消さない」という四倉氏の強い思いに共鳴し、四倉氏と共にこの文化交流事業の【共同発起人】として固い約束を交わし、活動をスタートさせました。当時の石巻は活動継続が極めて厳しい状態でしたが、四倉氏（のち 2012 年に入会）と「一人になっても雄勝の太鼓は無くさない」と存続を望んでいた、保存会現副会長の畠中のぞみさんの熱い情熱により、現地での活動や保存会の復活への道が模索され始めました。

・ 志に共鳴した仲間たち——信頼で結ばれた支援の輪

大川と四倉氏と畠中さんが灯した想い、伊東の仲間たちが真っ先に呼応します。大川の熱い思いと行動に深く共鳴した工藤宣佳氏（現・株式会社広野園 代表取締役）が、強力なバックアップ（現・事務局長）を買って出ました。さらに、実の姉が雄勝町に嫁いでおり、故郷の危機に胸を痛めていた彫刻家の前野悦子氏（現・ジャージ一の森オーナー）もこの活動に加わり、地域の確固たる信頼で結ばれた強固な支援ネットワークが形成されました。

- ・「タイヤの太鼓」と「麺棒のバチ」—— あまりに見事な歴史のシンクロニシティ

震災当初、復活を決意した保存会の大人たちは伊東市の按針祭太鼓合戦に出演するため「雑誌」を叩いてリズムを思い出し、雄勝中学校の子供たちは「古タイヤにビニールを張って作った手作りの輪太鼓」と「麺棒」をバチ代わりにして必死の練習を重ねていました。彼らの楽曲が、伊達政宗の命により雄勝で造られた洋式帆船「サン・ファン・バウティスタ号」を讃えるものだと知った大川は、徳川家康の命で三浦按針が伊東で日本初の洋式帆船「サン・ブエナ・ベントウーラ号」を建造した歴史との見事なシンクロニシティ(縁の妙)に着目します。

- ・『ふたつの帆船にひとつの風を』—— 先人たちが繋いだバトン

このロマンに共鳴し、当時の静岡県議会議員だった小野達也氏(元・伊東市長)や地元の故・佐々木清市市議、故・榎本元彦市議、元市議の西島彰氏らが一丸となって行政の枠組みを動かし、『ふたつの帆船にひとつの風を』をキャッチコピーに、公共事業とし

て「石巻市雄勝町伊達の黒船太鼓保存会交流会」が正式に発足。
県の補助金を活用した3年間の次世代文化交流事業(雄勝中学校
校×伊東市立南中学校)がスタートしました。遠路はるばる伊東
へやってくる雄勝の演者や子供たちを、伊東の元ホテル経営者で
ある大川満幸・愛子夫妻は温かく迎え入れ、物心両面から深い愛
情で支え続けました。2011年8月9日の按針祭での復活演奏を
きっかけに保存会は再起を決意し、世界的な復活へと繋がってい
きました。

今年の「按針祭 太鼓合戦」最大の見どころ: 雄勝のスピリットを受け継いだ「伊東支部」の4名

震災から15年、そして按針祭80周年という記念すべき今年、この絆は「支援する側・される側」の枠を完全に飛び越え、伊東の地元メンバーによって結成された「伊東支部」の4名が、雄勝のメンバーと同じステージに立つという最高の舞台を迎えます。

- ・ **15 年前の雄勝と同じ——「現在も雑誌」を叩いて繋ぐ魂
(演者 4 名)**
- ・ 今年、満を持してステージに立つのは、大川光浩、大川浩輝、前野悦子、藍原壮太の 4 名。伊東には本物の練習用太鼓も叩いて練習できる場所がないため、15 年前の震災当初に雄勝のメンバーがそうしていたように、彼らもまた「現在に至るまで」、お店や日々の仕事の合間に「雑誌」を太鼓に見立てて叩き、必死にリズムを体に刻み込むストイックな練習を続けてきました。道具がないという壁を、雄勝へのリスペクトと執念だけで乗り越えた 4 名の魂の演奏は必見です。
- ・ **マスコットボーイから本物の叩き手へ、親子二代で繋ぐ次世代への継承**

演者の一人である大川浩輝(ひろき)さんは、15 年前の交流開始当時、幼い子どもながらに大人たちの活動に同行し、現地雄勝のメンバーからも「マスコットボーイ」として可愛がられていた存在でした。タイヤの太鼓を叩いていた雄勝の子供たちの姿を小さな目で見つめていた少年が、15 年の時を経て、自ら伝統を継承する頼もしい叩き手として、父・光浩氏と共にステージへ上がります。

- ・ **街の有志が結集した、伊東支部の強力なバックアップ布陣**

この4名の演者を支えるため、大川友栄さん、川奈のうどん店「ゆみうさ」を経営する池田宗一郎・真由美夫妻らが練習のサポートや応援として加わり、事務局長には工藤宣佳氏が就任。伊東の経済や文化を支える新旧の市民たちが一体となり、強固なバックアップ体制を敷いています。

社会的価値：15年間、両市民が公的な支援なく行き来し創り上げた「真の共存関係」

本事業の最大の価値は、行政の枠組みを超え、「石巻のメンバーが15年間のうち公的支援がなくなった12年後も、毎年伊東へ足を運び続けている」という、圧倒的な双方向の熱量にあります。そこへ伊東の老舗事業者だけでなく、街に魅せられて移住してきた「新市民」たちの力が融合し、今回の伊東支部発足へと至りました。

単なる「被災地支援」という一過性の関係を完全に飛び越え、遠く離れた二つの街の市民同士が、お互いの伝統と歴史をリスペクトし合いながら15年間「共存」し、血の通った『関係人口』を循環させ続けているこの姿は、これからの日本の地方自治・地域間交流における最高峰のロールモデルです。

- ・ **本番日時:** 2026 年 8 月 9 日(日) 按針祭 太鼓合戦ステージにて
- ・ **場所:** 静岡県伊東市(按針祭特設会場)

伊東支部の練習について

- ・ **日時:** 毎週木曜日 19:00～21:00
- ・ **場所:** 八幡野コミュニティセンター(静岡県伊東市八幡野 1189-2)

※メンバーが仕事終わりに集まり、本当に雑誌を叩き込んで汗を流しているリアルな現場をご取材いただけます。記者クラブの皆様
の事前取材、大歓迎です。なお、按針祭の出演に備えて7月23日は石巻での練習参加になるかもしれないので7月23日は伊東での練習はお休みになるかも知れませんのでご了承ください。